

東御市民大学講座歴史講演会

真田家の鷹狩り

～鷹術の宗家、祢津家の血脈～

長野県立大学 教授

講師 **二本松 泰子 氏**

日時 **9月17日(日) 13時30分より**(開場 午後1時)

会場 **東御市中央公民館 2階 講義室**

【プロフィール】

平成11年3月 立命館大学大学院文学研究科 博士課程後期課程学位取得修了、博士(文学)。

専門は日本古典文学。長野県短期大学、長野県立大学准教授を経て令和3年10月から教授。

日本の古典籍と伝統技芸について、伝承学的な手法からその文化的実相を明らかにする研究を進めている。主な研究対象は中世～近世に大量に制作された「鷹書」と称される鷹狩りのテキスト群と、我が国における狩猟文化の枢要を担ってきた諏訪信仰の諸相について。

・鷹書研究会会員、伝承文学研究会同人

【著書】 中世鷹書の文化伝承(三弥井書店)

鷹書と鷹術流派の系譜(三弥井書店)

真田家の鷹狩りー鷹術の宗家、祢津家の血脈(三弥井書店)



信濃国小縣郡(現・長野県東御市)を本貫地とする祢津一族は鷹術の宗家でした。戦国時代、一族の分家の中には徳川家康に仕えて重用された人物もいます。その一方で、本家は真田家に仕えました。例えば、後に松代藩の初代藩主となった真田信之公の乳兄弟であり、腹心の家臣である祢津幸直は、祢津家に伝わる鷹狩りの知識を大いに活用して信之の藩政を支えました。さらにそれは、真田家の政治外交や松代藩の文化振興にとっても重要な役割を果たすものでした。今回の講演では、このように真田家に仕えた祢津家の鷹術について新出資料を使って紹介します。

主催:東御市民大学運営委員会 東御市公民館

申込先:東御市中央公民館 電話 0268-64-5885